日本産業衛生学会第 285 回関東地方会例会報告

当番幹事：小田切優子（東京医科大学公衆衛生学分野）

2019 年 4 月 20 日（土）、産業保健における今日的話題（グローバル化および働き方改革）をメインテーマとして、第 285 回関東地方会例会を東京医科大学病院臨床講堂にて開催した。

はじめに厚生労働省労働基準局安全衛生部部長の椎葉茂樹先生にご登壇いただき「日本における働き方の今後」と題し特別講演をいただいた。一億総活躍社会を実現するための最大のチャレンジと位置付けられた働き方改革の実行計画について、その概要と主旨を、特に長時間労働の是正と、治療と仕事の両立の 2 点に重点をおいて詳細に解説をいただいた。終電で帰ることを自慢し長時間労働がキャリアの証のような文化を変えていくことが必要であり、国が法を整備しリードして改革していくという厚生労働行政の熱い思いを伺えた。我々、産業保健スタッフもそれを受け止めて各事業場での対応を行っていきたいと思う。

引き続きの特別講演では「グローバル社会の産業保健職が知っておくべき渡航者の健康管理」と題し、東京医科大学渡航者医療センター濱田篤郎教授にご講演いただいた。海外出張者、海外駐在員ともに近年大変人数が増加しており、健康対策として日頃の健康管理が重要であることはもちろん、必要なワクチンの対応を早めにとっておくことが重要とのことであった。また、改正入管法成立後の外国人就労拡大に伴い、インバウンド感染症にも注意が必要とのことで、外国人労働者を受け入れる企業の責任、地域への社会的責任として健康管理対策の重要性を認識する講演であった。

シンポジウム「人間らしい働き方と産業保健」では、働き方改革に関連して、勤務間インターバルの導入や長時間労働をなくす取り組みについて、研究者の立場として久保智英先生（労働安全衛生総合研究所上席研究員）に、企業での労働者あるいは組合の立場として春

川徹氏（情報産業労働組合連合会政策局局長）に、人事の立場から次藤智志氏（伊藤忠テクノソリューションズ株式会社人事部部長）に、産業医の立場として小島玲子先生（株式会社丸井グループ執行役員・健康推進部部長・統括産業医）にご発表いただいた。

働き方改革については、勤務間インターバルや残業禁止の制度について導入を社内で検討していたり、取り組みをスタートした段階のところも多いと思われるが、実は制度の運用がポイントであり、業種や事業場の仕組みや風土などに合うように工夫していくことが重要というメッセージを各演者の先生方からいただいた。時間は有限であり、働くときは働く、休む時は休むという意識をしっかり浸透させること、経営層を動かすこと、そのためには数値で迫ること、産業保健スタッフだけで進めず多くの人に関わってもらうこと、そのためには楽しい、格好良い、と感じられる構造にすること、など多くのコツや工夫をご紹介いただくことができた。参加者にとって働き方改革の自己（自社）効力感が高まるようなシンポジウムだったのではないかと自負している。

事前申込多数につき受付をお断りする事態も生じ会場混雑と入場の混乱が懸念されたが、262 名（会員 188 名、非会員 74 名）と多数のご参加をいただき無事に終了することができた。働き方改革をテーマに掲げつつ土曜日開催という無粋な日程をご容赦いただきたい。ご登壇いただいた先生方、開催にご協力をいただいた関係各位の皆様方、ご参加いただいた先生方に御礼申し上げる。